
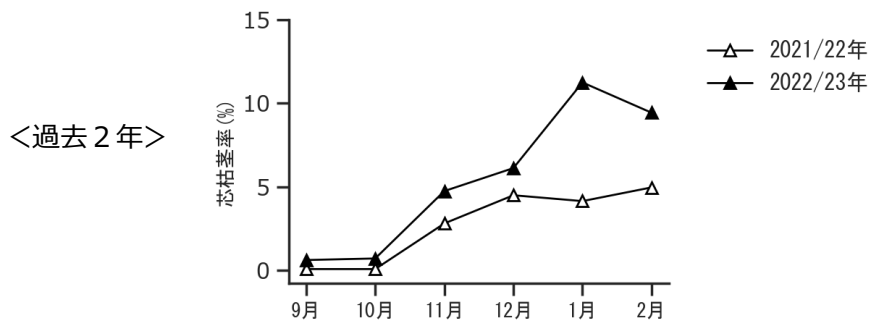
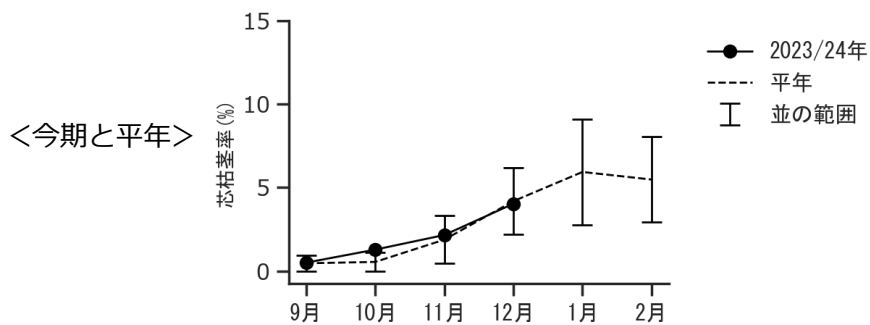


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


芯枯茎率の推移 (夏植え)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ、イネヨトウ
- ・発生ほ場率93.8% (平年：86.8%) ・病害虫防除員報告：多発生 (南大東島、粟国島)

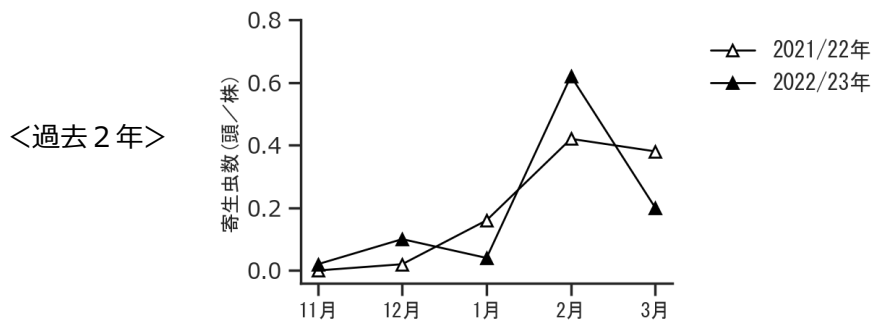
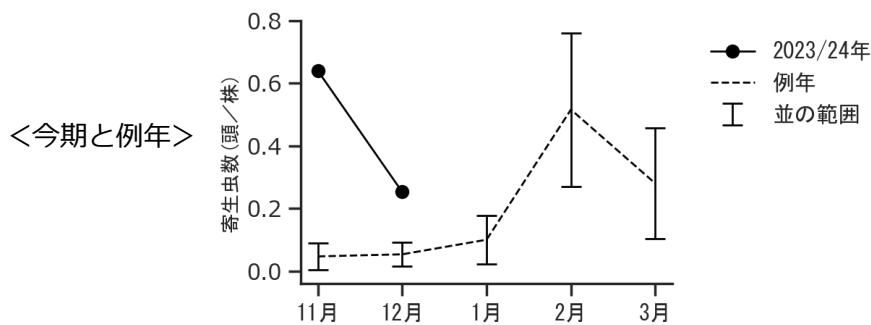
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	① コナガ		
調査結果	12 月の発生量（例年比）	多	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量（例年比）	多	
予報の根拠		例年の発生量の推移（↗）	

調査結果

寄生虫数の推移



・発生ほ場率60.0%（例年：40.0%）

防除のポイント

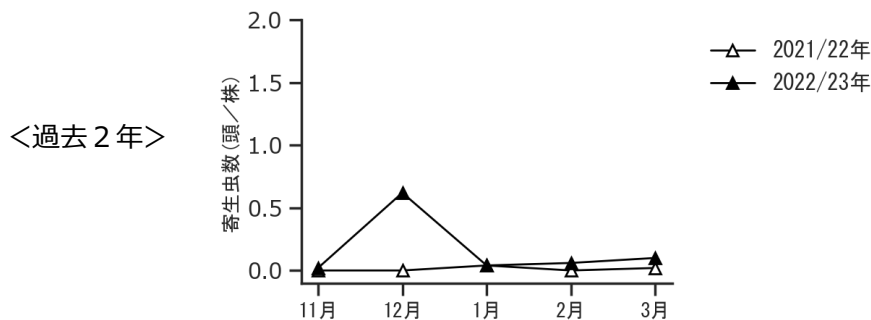
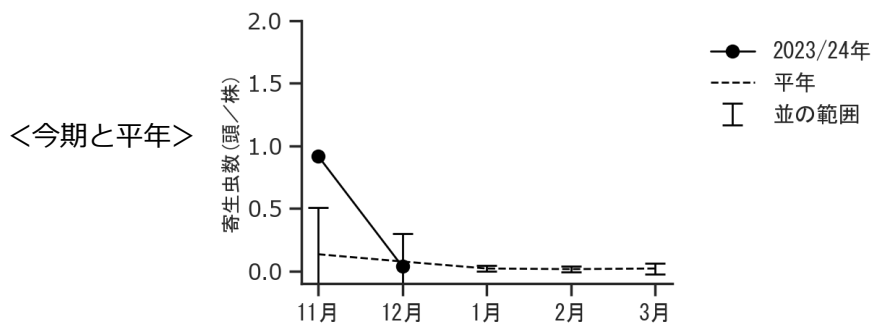
- ・発生源となりうるアブラナ科雑草の除去および、収穫後の残さ処理に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、低密度時に薬剤防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	② チョウ目幼虫		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	↓	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	



調査結果

寄生虫数の推移



- ・発生種：モンシロチョウ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：12.0%)

防除のポイント


- ・発生源となりうる雑草の除去および、収穫後の残さ処理に努める。
- ・新しい食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



ハスモンヨトウ

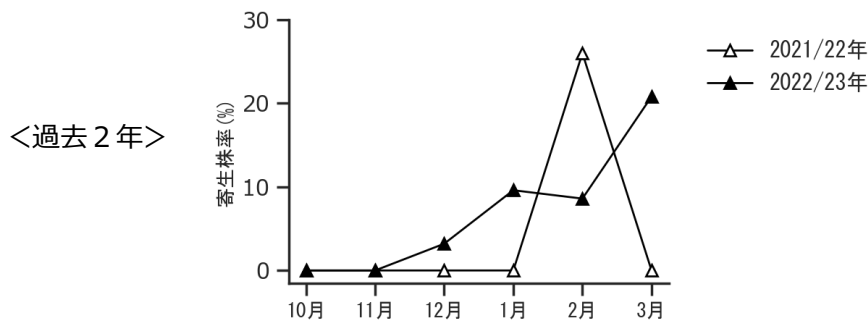
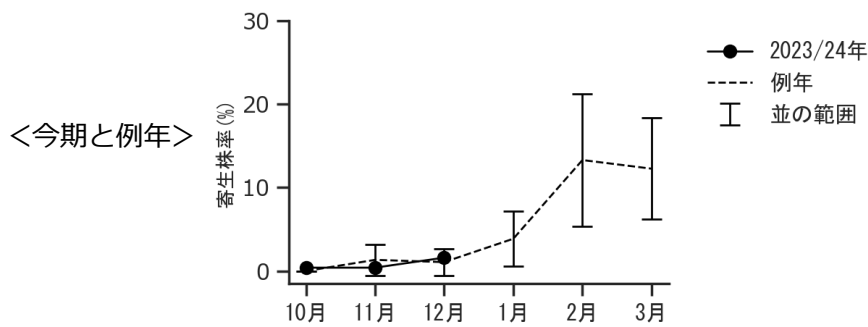


タマナギンウワバ

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	① アブラムシ類		
調査結果	12 月の発生量 (例年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量 (例年比)	並	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


寄生株率の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率60.0% (例年：20.0%)

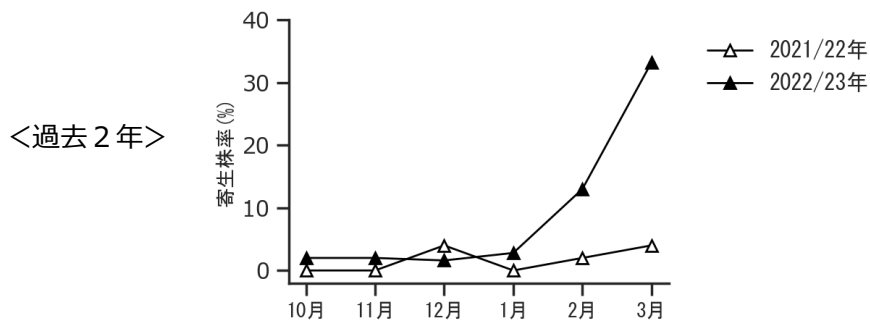
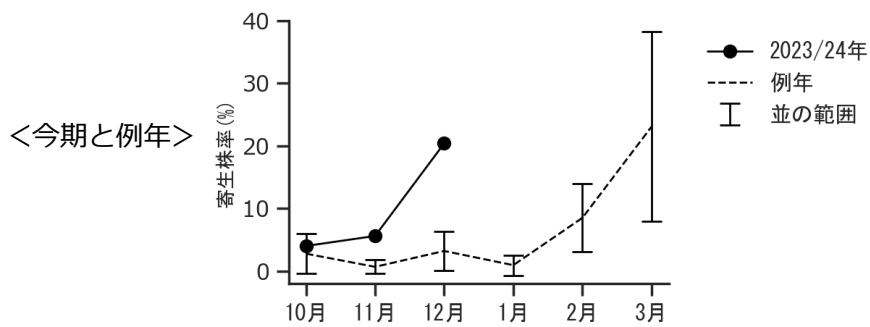
防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場内外の雑草の除去に努める。
- ・植え付け時に粒剤を施用し、初期防除に努める。
- ・早期発見に努め、適宜薬剤散布を行う。

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	12 月の発生量 (例年比)	多	
予報	12 月からの増減傾向	↓	
	1 月の発生量 (例年比)	多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↓)	

調査結果


寄生株率の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率100% (例年：33.3%)

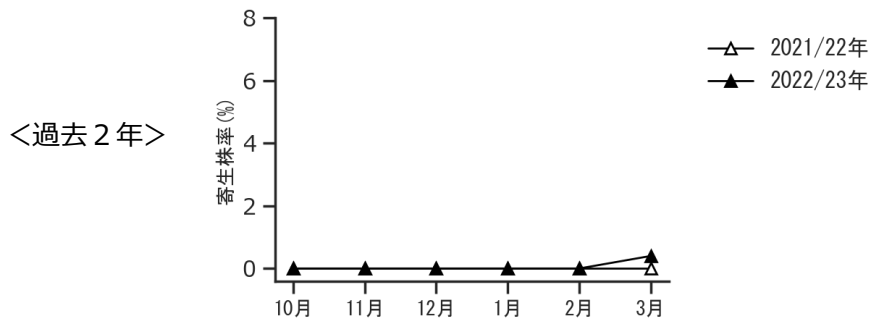
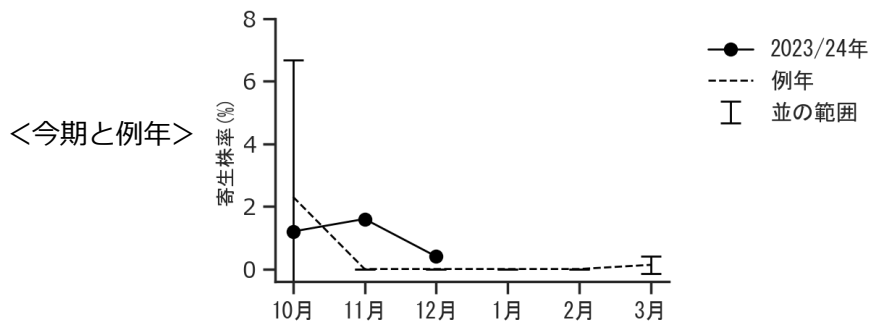
防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場内外の雑草の除去に努める。
- ・早期発見に努め、適宜薬剤散布を行う。

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハスモンヨトウ		
調査結果	12 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)	

調査結果


寄生株率の推移



・発生ほ場率20.0% (例年：0%) 一部ほ場で多発

防除のポイント

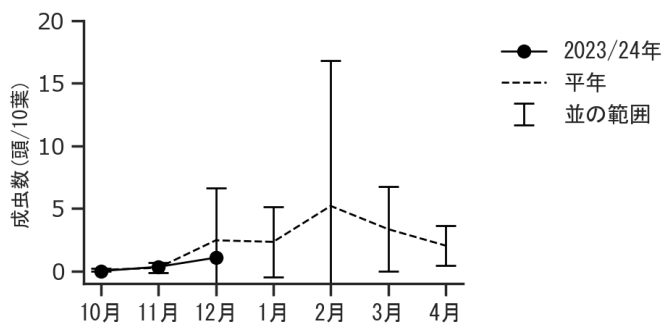
- ・新しい食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

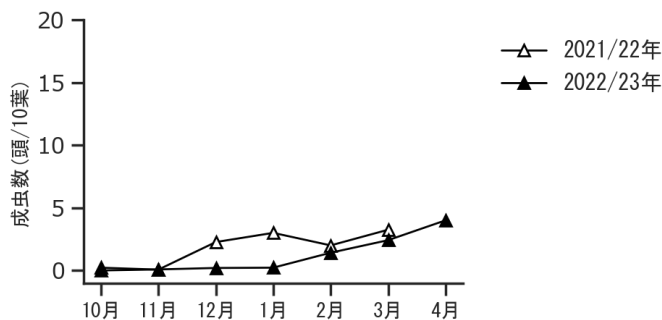
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>




<過去2年>



・発生ほ場率60.0% (平年 : 38.6%)

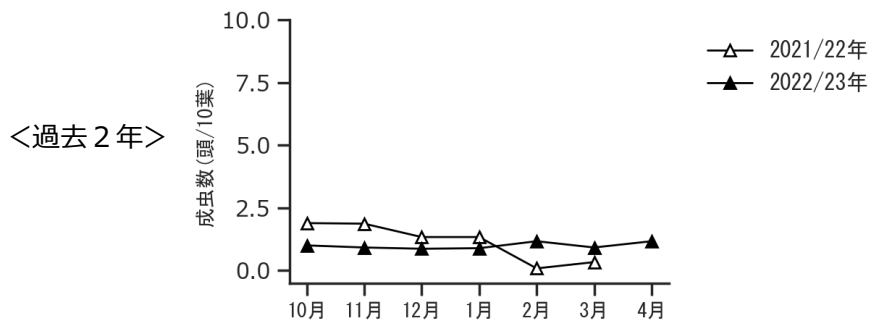
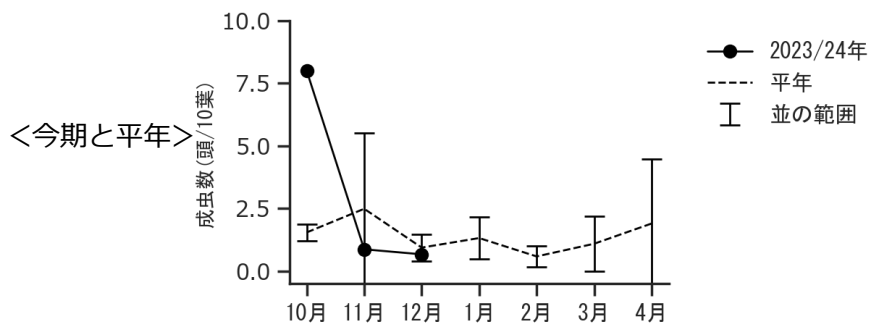
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移




・発生ほ場率80.0% (平年 : 75.5%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

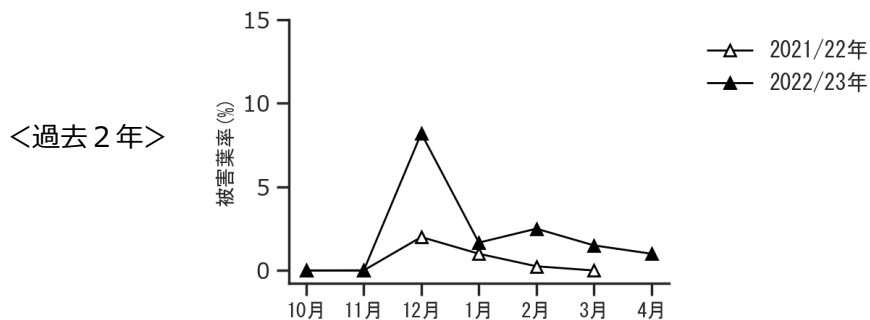
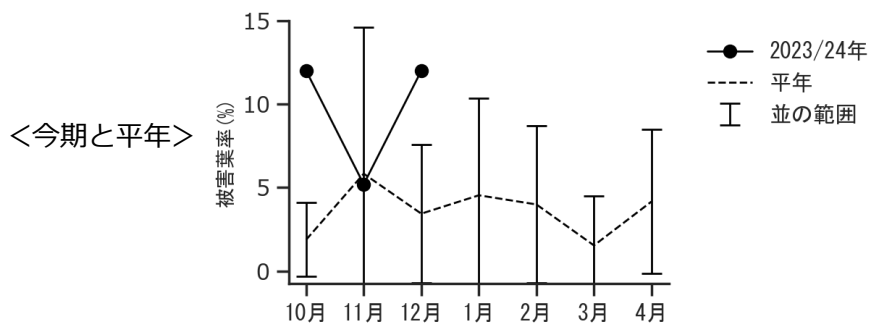


幼虫

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

被害葉率の推移




・発生ほ場率40.0% (平年 : 64.1%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・野外に多数の在来天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

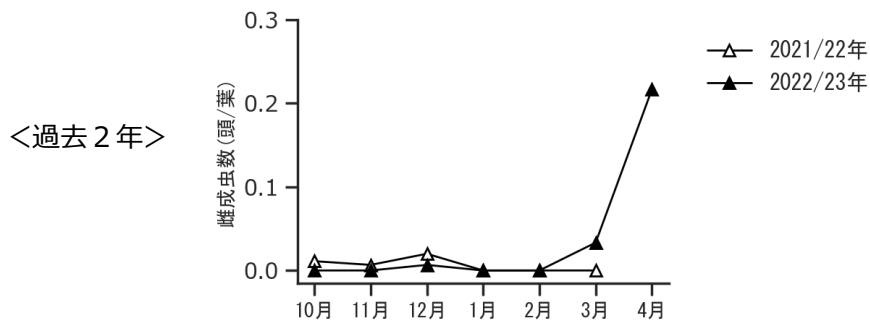
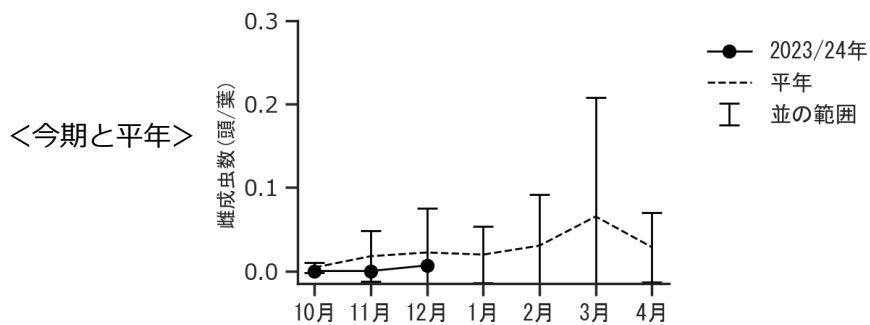


被害葉

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類			 <p>ナンゴクナミハダ</p>
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


雌成虫数の推移



- ・発生種：ナンゴクナミハダニ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：15.4%)

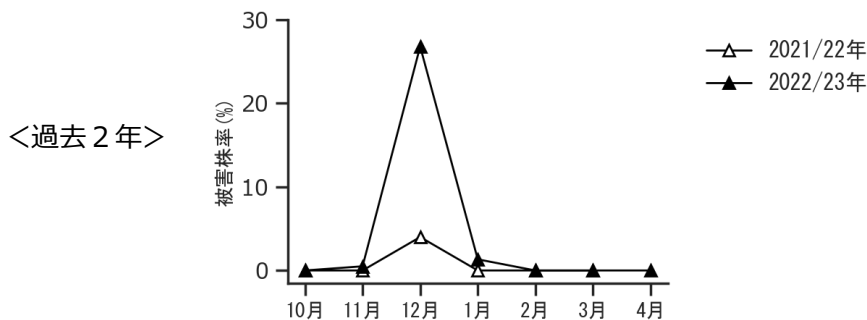
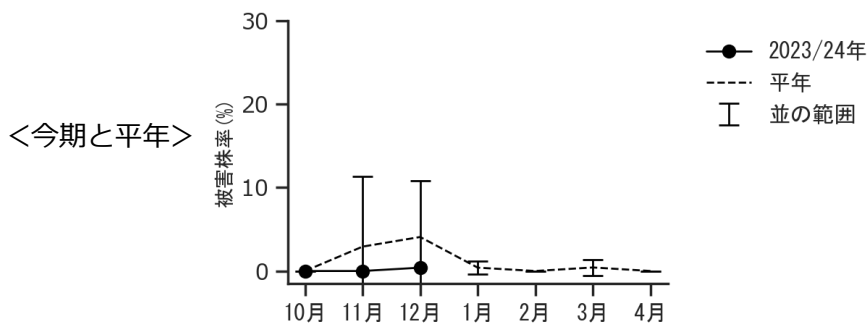
防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	ホコリダニ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	↓		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


被害株率の推移



- ・発生種：チャノホコリダニ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：17.9%)

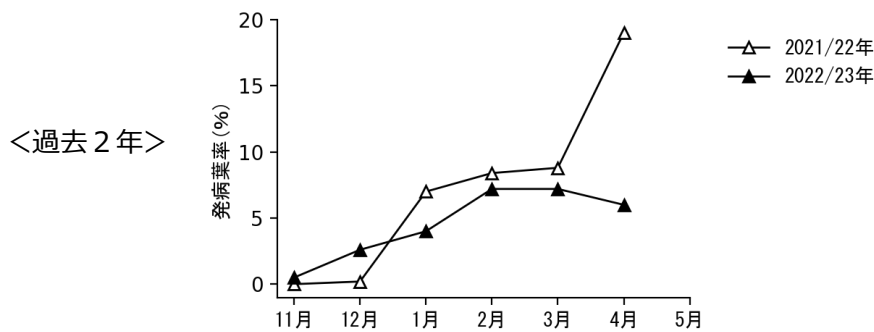
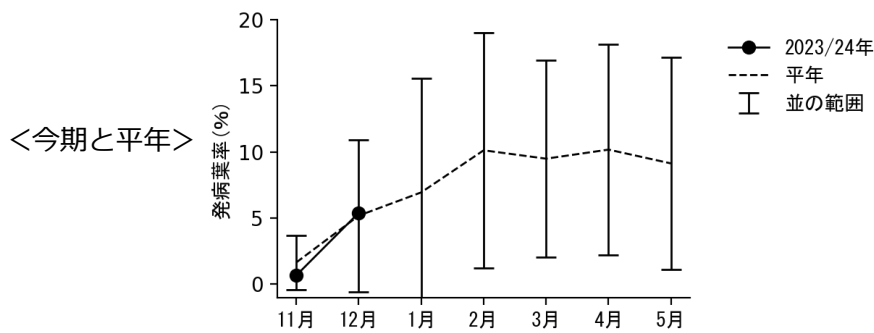
防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場内外の雑草除去に努める。
- ・発育速度が早く、短期間で高密度になりやすいため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っているため、薬散は丁寧に行う。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① 斑点病			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	↗		
		1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率60.0% (平年：42.0%)

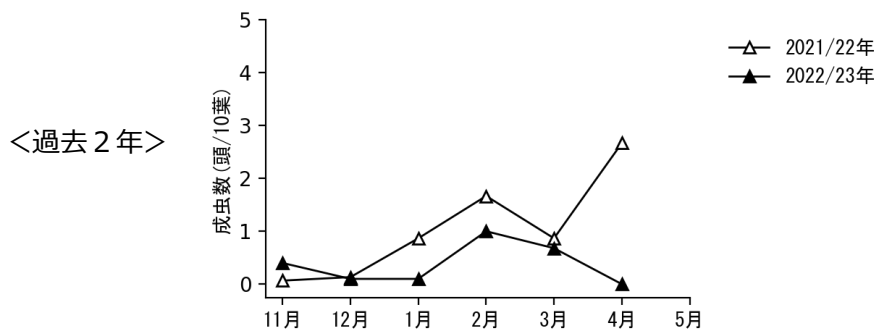
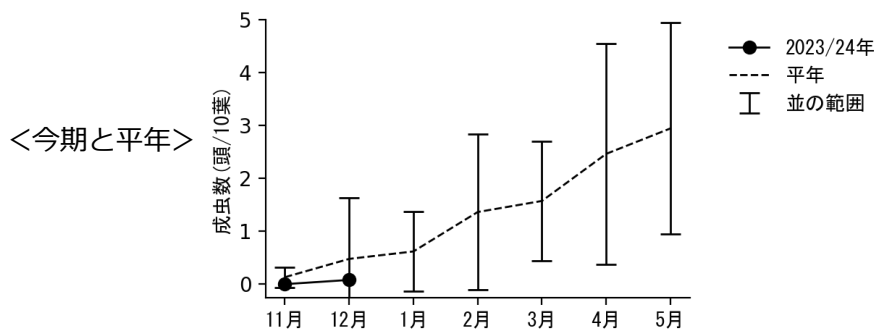
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率40.0% (平年：20.0%)

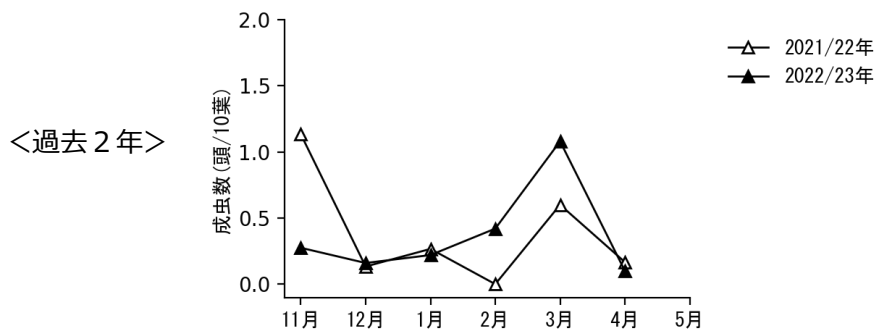
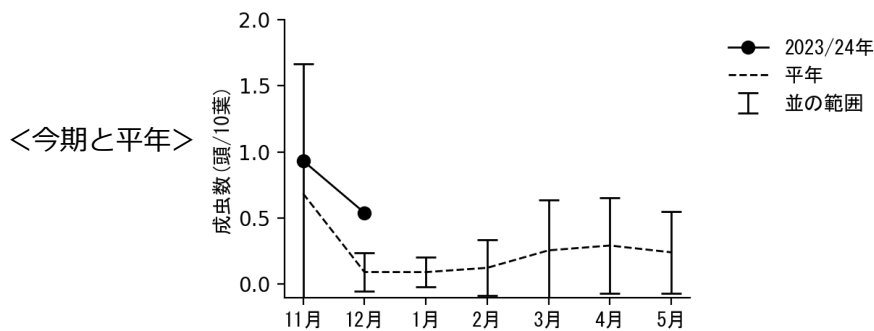
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率80.0% (平年：17.8%)、一部施設で多発

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

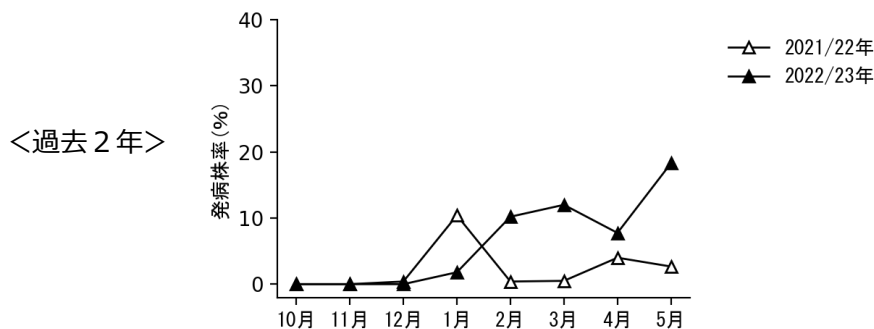
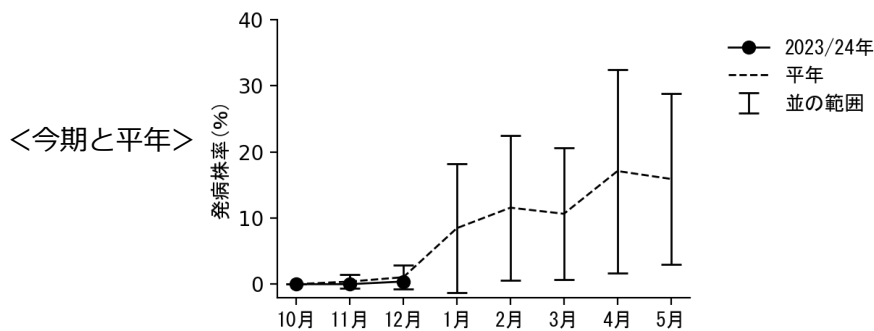


幼虫

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 14.5%)

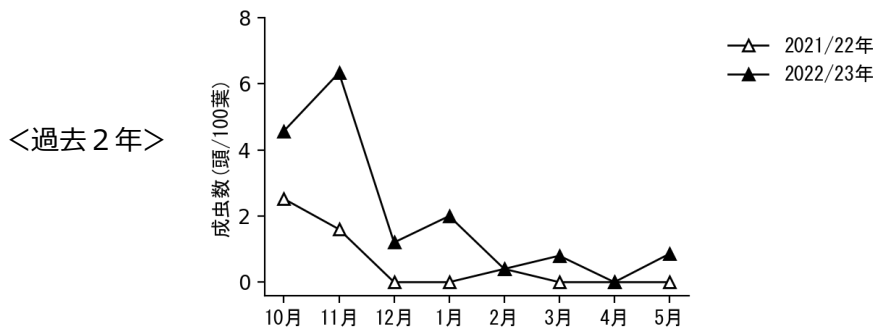
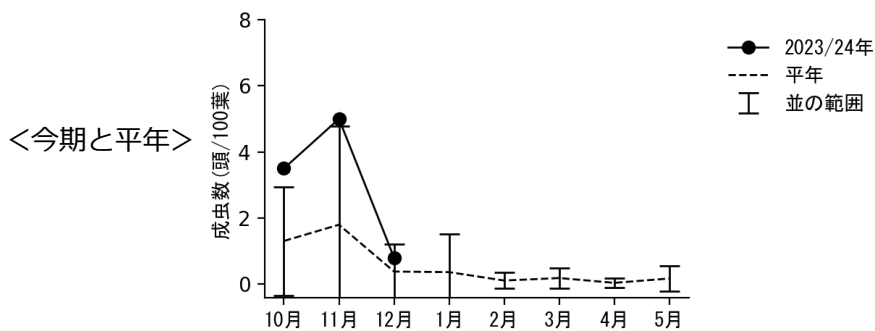
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率20.0% (平年：9.1%)

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

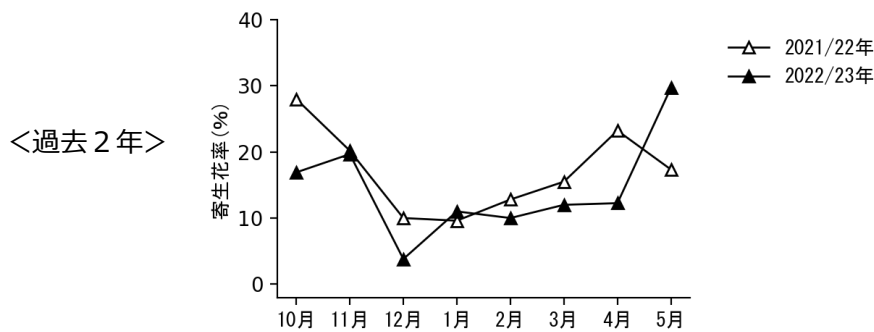
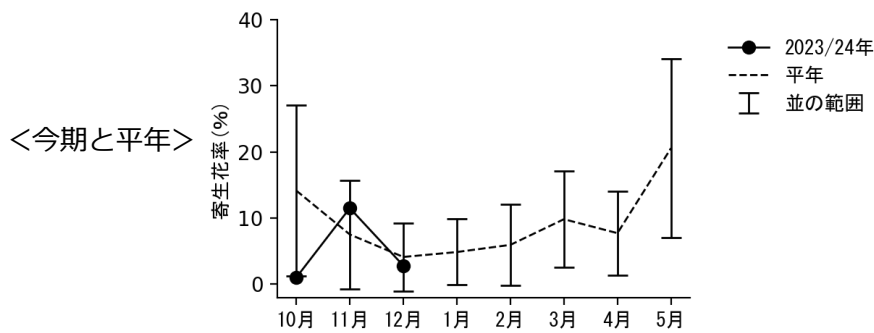


被害葉

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ヒラズハナアザミウマ			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


寄生花率の推移



・発生施設率80.0% (平年 : 37.1%)

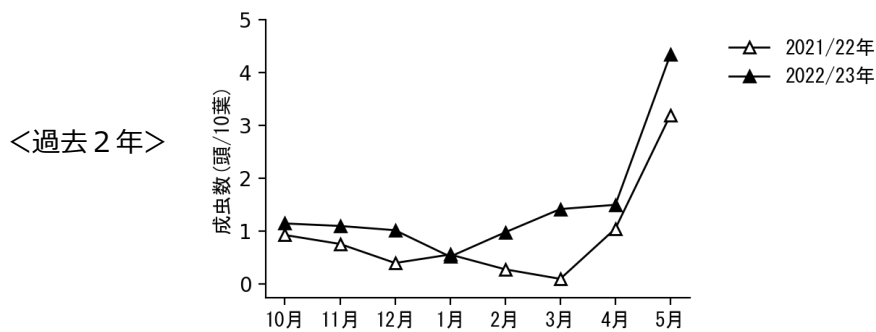
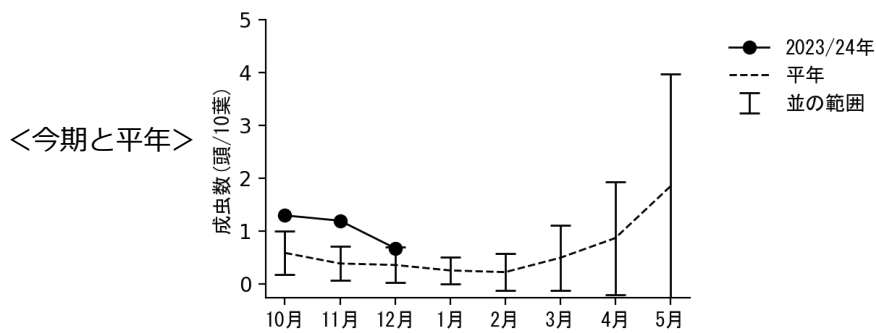
防除のポイント

- ・主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へ夕部や果梗部が黒変する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		 <p>成虫</p>	
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率80.0% (平年 : 49.1%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窗は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

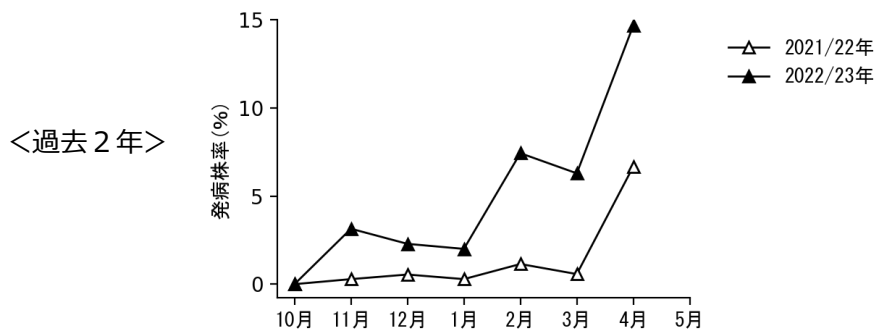
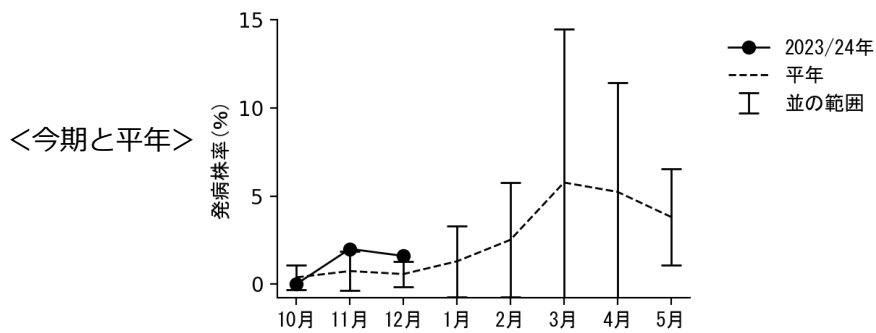


幼虫

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率20.0% (平年：25.3%)、一部施設で多発

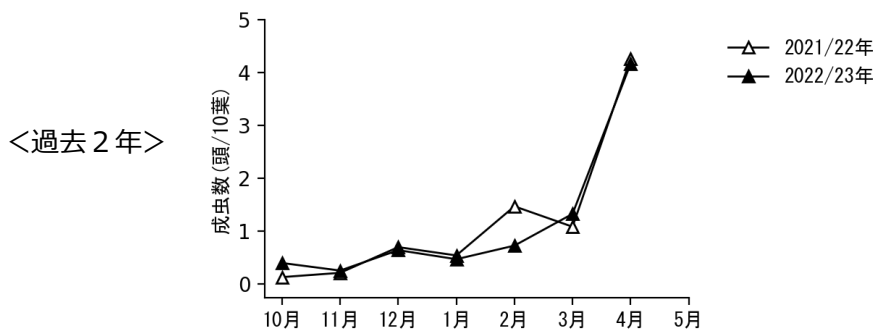
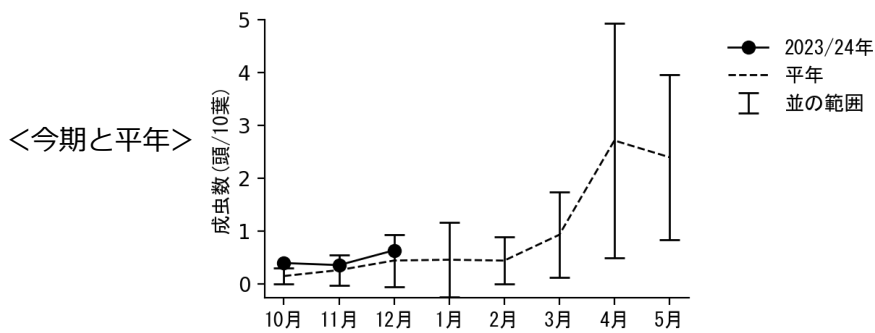
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・伝染源となるムラサキカタバミやノグシ等の雑草除去に努める。
- ・発病株や摘葉残さは伝染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率100% (平年 : 58.7%)

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

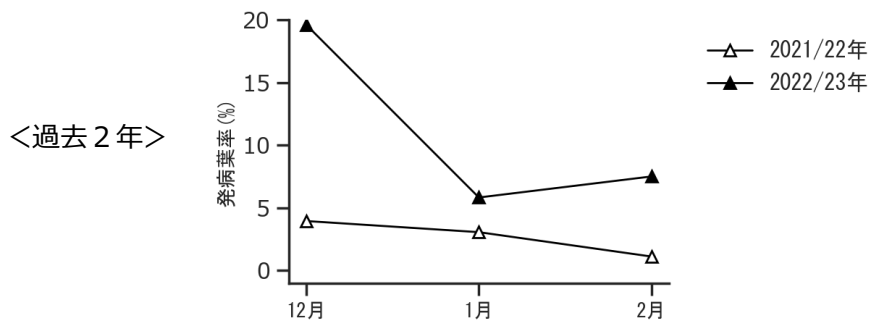
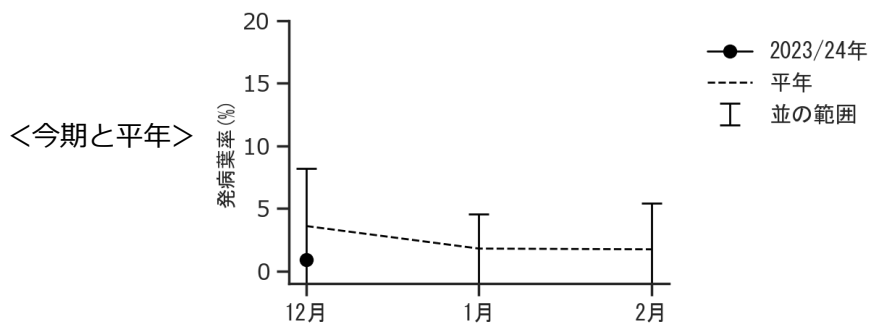


幼虫

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島	
病害虫名	① 黒斑・褐斑病				
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並			
予 報	12 月からの増減傾向	↘			
	1 月の発生量（平年比）	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）			

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率22.2%（平年：30.2%）

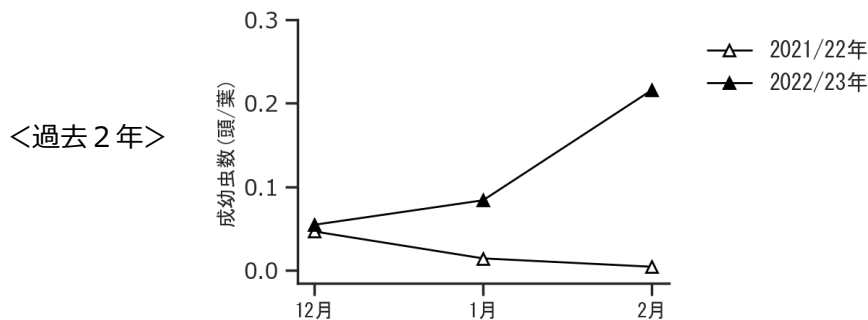
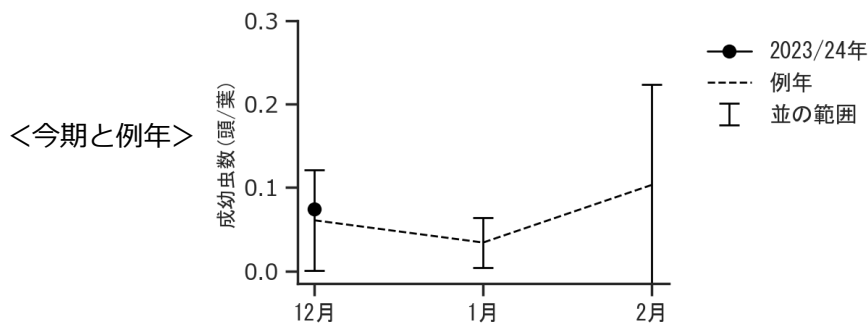
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草やマルチ等を行う。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生を助長するため、施肥管理を適正に行う。
- ・発生が多い場合は薬剤防除を徹底する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類			 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	12 月の発生量（例年比）	並		
予報	12 月からの増減傾向	↘		
	1 月の発生量（例年比）	並		
予報の根拠		例年の発生量の推移（↓）		

調査結果


成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率88.9%（例年：80.6%）

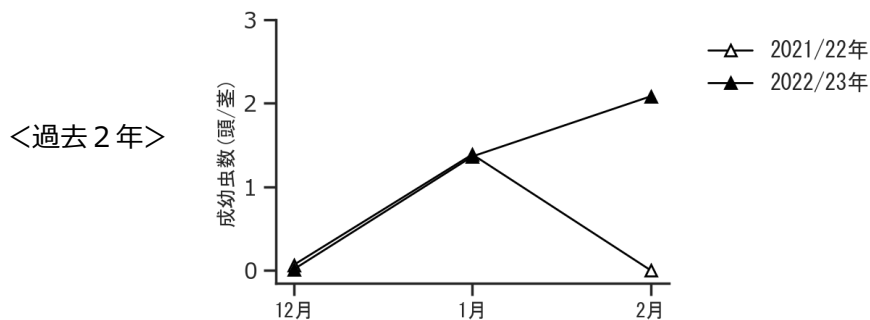
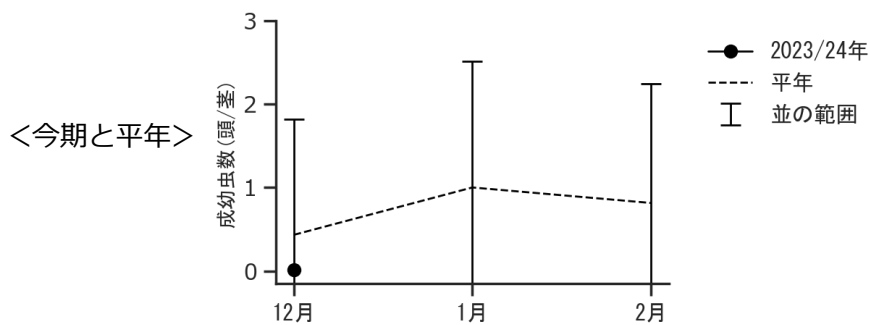
防除のポイント

- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、生長段階等の違いがあっても、同時に防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連続使用を避け、ローテーション散布を行う。

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

成幼虫数の推移




- ・発生種：モモアカアブラムシ
- ・発生ほ場率44.4%（平年：41.4%）

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・定植～生育期または本虫の発生初期に粒剤を施用する。
- ・発生が認められたら新葉部を中心に発生部位に薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連続使用を避け、ローテーション散布を行う。

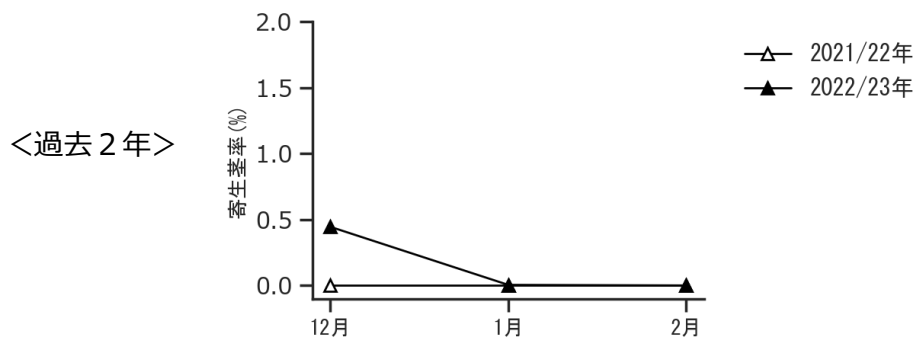
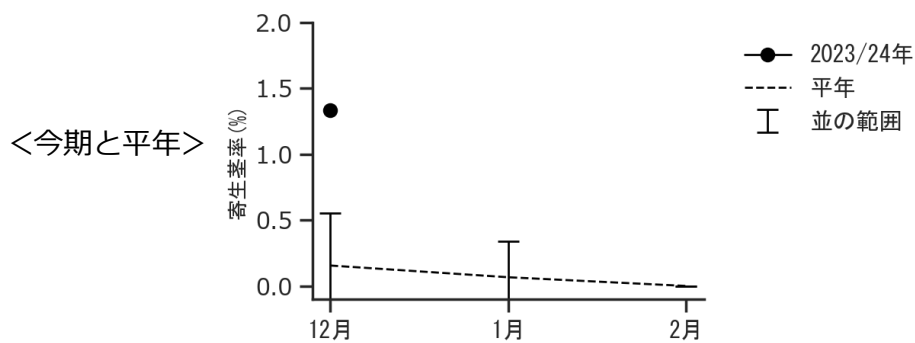


被害の様子

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫		 <p>ハスモンヨトウ</p>
調査結果	12 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	↓	
	1 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

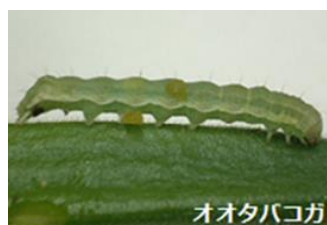
寄生茎率の推移




- ・発生種：ハスモンヨトウ
- ・発生ほ場率33.3%（平年：4.3%） 一部ほ場で発生

防除のポイント

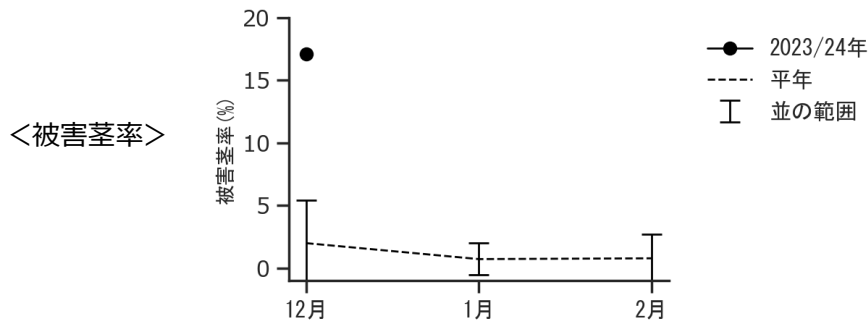
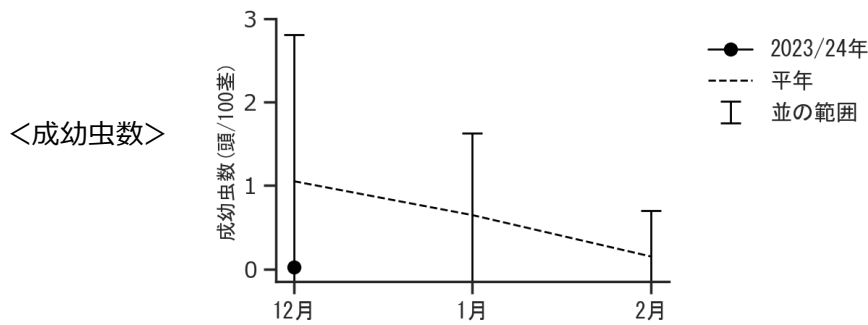
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・新しい食痕や虫糞を見つけたら近くに幼虫がいないか調べ、捕殺または薬剤散布を行う。



作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ カスミカメ類		 <p>ウスモンミドリカスミカメ</p>
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並	
予報	12 月からの増減傾向	↘	
	1 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果


今期と平年の発生推移



- ・発生種：ウスモンミドリカスミカメ
- ・発生ほ場率22.2%（平年：18.7%）

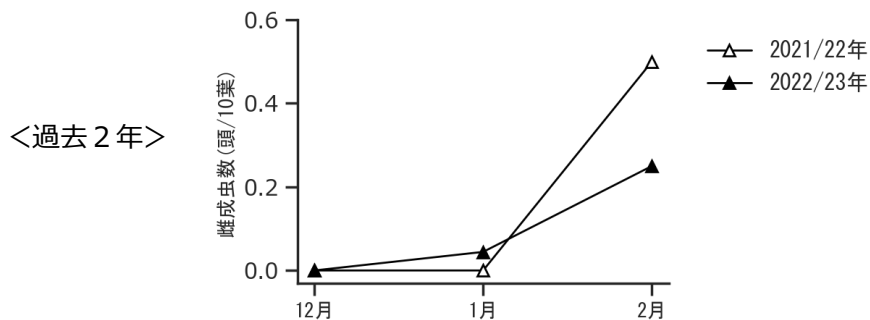
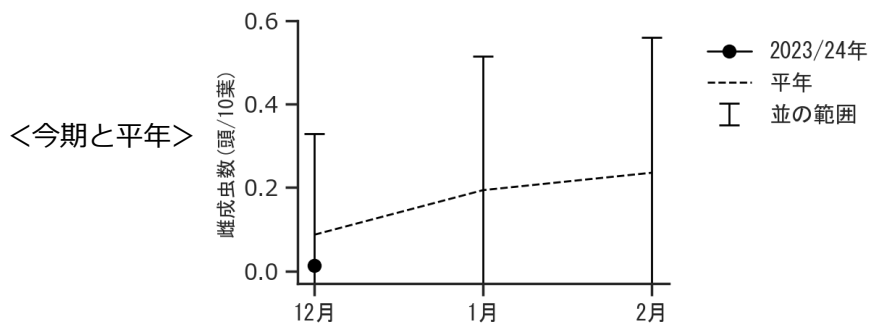
防除のポイント

- ・ほ場周辺のキク科雑草の花等は発生源となりうるので除去する。
- ・被害株は異常分枝するため、被害が確認された場合は速やかに再整枝を行う。
- ・防除は成虫の出現初期から 5～7 日おきに実施する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類			 <p>ナミハダニ</p>
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並		
予報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：ナミハダニ黄緑型
- ・発生ほ場率11.1%（平年：5.4%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。